

令和6年度 履修案内

副専攻・高度副 プログラム

大学院生
学部5・6年次生
対象

自分の専門の幅を
広げるために
関連する異分野を
学びたい

修論や博論に
別の量的／質的
研究手法を
取り入れたい

自分の研究や
実験手法を社会で
どう活かせるか
知りたい

ゼミや研究室
以外の
先生や学生とも
繋がりたい



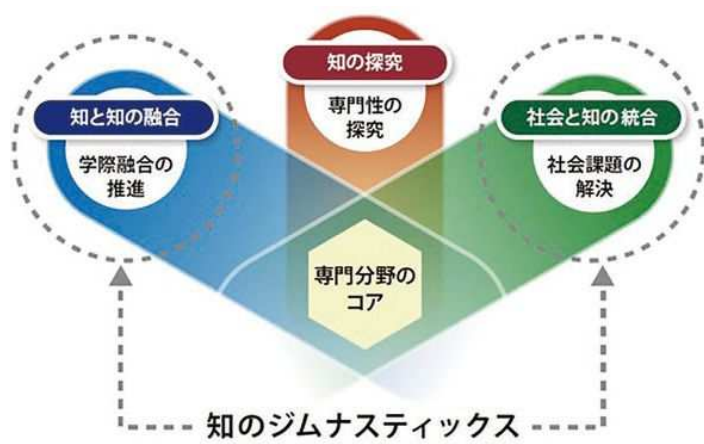
専門を生かす、 専門外の学びを。



田中 敏宏 統括理事・副学長
(教育研究担当)

知識基盤社会の到来とともに、大学院教育に対する期待は年々高まり、また多様性を増してきています。このような社会情勢において、社会の課題を解決し、維持・発展させていくためには、これまでのようなアカデミアにおける研究を推進するだけでなく、イノベーションの創出やSDGsに代表されるような、複雑な課題を解決する資質を有した高度な人材の育成を担う大学院教育が求められています。大阪大学ではこのような認識のもと、総合大学としての強みを活かし、多様性ある、また柔軟なカリキュラムを提供できるような大学院教育改革「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム、“Double-Wing Academic Architecture (以下DWAA)”」を推進しています。

本冊子において紹介する大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムはDWAAにおける「新たな知識や技術の組み合わせを試みる創造的な『知と知の融合』」、「社会の中にある課題を発見し、解決方法を創造し、さらに社会に実装する『社会と知の統合』」の実現を目指すプログラムとして位置付けているものです。みなさんがプログラムを受講し、更に飛躍されることを期待しています。



DWAA

Double-Wing Academic Architecture

知の探究

専門分野を深め、専門家を育成する教育
(これまでの大学院教育の方向性)

知と知の融合

いくつかの異なる学問・研究分野からなる
複合領域を学修する教育

社会と知の統合

社会課題に対する解決に向けての
実践的な取り組みを通じて学修する教育



副専攻・高度副プログラムとは？

専門外の学問を自主的に学び
俯瞰的視野・複眼的視点・
体系的思考・主体的行動が
身につくプログラムです

これまでに1万人以上の
阪大生が履修しています！



関連科目をパッケージ化

分野外の新たな出会い

実践的なスキルも身につく

履修対象者 大阪大学の大学院生(科目等履修生・特別聴講学生を除く)

※高度副プログラムの一部は、本学6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5、6年次生も履修できます。

令和6年度は70のプログラムを開講！

大学院副専攻
プログラム

23
プログラム

修了要件 14単位以上

もう一つの専門として異分野の学問を
しっかり深く学びたい人におすすめ

大学院等高度副
プログラム 通称 副プロ

47
プログラム

修了要件 5~13単位

異分野の学問を体系的に学びたい人におすすめ
副専攻より単位数は少なめです

副専攻と副プロ、何が違うの？

修了要件単位数が異なります。
自分に合ったプログラムを探してみましょう！



受講
申込締切

4/17水 13:00

プログラムの
履修

プログラムの構成科目から
自分の関心に応じて科目を履修します。

手順の詳細は
P5をご覧ください

プログラムを選択



プログラムの構成科目から
履修する科目を選択



定められた
科目の単位数を修得



とある副プロ(修了要件8単位以上)を
履修したAさんの場合

※開講科目の数や開講時期、修了要件における必修科目・選択科目の内訳などはプログラムによって異なります。



プログラムを履修した先輩に
聞きました！

先輩の 体験談



履修のきっかけは？

- 専門だけではなく隣接する分野を学びたかった
- チラシで知った
- 先輩、友人から勧められた
- 就活に使えるかなと思った
- 学部生の時に、パンフレットをもらった
- 社会に出て役に立つようにと思って履修した

履修して良かったことは？

● 新たな分野で学んだことを自分で調べたり、さらに関連する他のことを調べたりして、どんどん知識が広がった。好奇心が呼び起こされます。(工学研究科)

● 日本の古典芸能について広い知識を得られてよかった。文楽・浄瑠璃を初めて知りました。(法学研究科・留学生)

● 社会人も一緒に受講していたので、ディスカッションを通じて、社会で技術者として働く人たちから学ぶことが多かったです。(基礎工学研究科)

● 自分の専攻以外の学生や先生と授業を通じてつながりができ、気軽に相談することができました。(人文学研究科)

毎年**9割以上**の学生が
プログラムの受講は
役立っていると回答



令和4年度の受講者アンケートより(N=47)

● 研究の合間を縫って受講していました。大変だったけれど、忙しいからこそメリハリをつけて時間を使うことにつながり、そのことが専門研究を進める上でもとても良かったです。(副専攻「超域イノベーション副専攻プログラム」、副プロ「メディカルデバイスデザイン」履修生/医学系研究科)

● 修了要件が16単位の副専攻プログラムを履修。修士1年の時は副専攻の授業が7コマあり、研究科の専門とは違う分野のプログラムだったこともあって、めちゃくちゃ忙しかったです。しんどかったけど、得たものはかなりあったので、今となってはやって良かったです。(副専攻「金融・保険」履修生/基礎工学研究科)

忙しさは？ 大変だったことは？ 主専攻と両立できる？

● 教育現場で勤務しているため講義の時間と業務が被ることがあり、時間のやりくりが大変でした。講義の内容も初心者には難しいものが多かったのですが、先生方が温かく受け入れてくださったので両立することができました。(副プロ「スポーツ医学科学研究プログラム」履修生/人文学研究科)

1週間のスケジュール例	9:00	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20:00
	1限		2限			3限		4限	5限		6限	
MON			副プログラム			実験						
TUE			ゼミ活動			就活		授業				
WED			進捗報告(不定期)			授業		就活				
THU						実験				アルバイト		
FRI			TA(不定期)			副プログラム						



得た学び・知識・経験は 研究やキャリアに どのように生かしている？



● 研究科の講義では学べない社会実装の知識を得られたことや、チームでの自主研究を経験できたことが良かったです。プログラムでの学びを通して、自分が何にやりがいを感じるのかに気づけ、進路を選ぶうえでの指針を見つけられました。(副専攻「超域イノベーション副専攻プログラム」、副プロ「メディカルデバイスデザイン」履修生/医学系研究科)

● 自分の研究内容にプログラムで学んだ内容を盛り込むことができました。また、若手研究者フォーラムで発表して奨励賞を獲得することができました。今後のキャリアにおいても統計学の知識を活かせるようなフィールドで活躍していきたいです。(副プロ「デジタルヒューマニティーズ」履修生/人文学研究科)

● 専門研究に隣接する領域を学んだので、修士論文にも厚みを出せると思います。多角的な視点や引き出しの多さは、就職先の分野や業界を考えるうえでも活かすことができ、視野を広げて活動できました。今後のキャリアでも活かしていきたいです。(副専攻「ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム」履修生/基礎工学研究科)

● 主専攻の実習現場で出会う問題を多角的に見られるようになったと思います。公認心理師として現場で働くと思っていたけれど、副プログラムでの学びを通して、キャリアの選択肢が広がりました。(副プロ「ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育～健康のための社会デザイン～」」、副プロ「公共圏における科学技術政策」履修生/人間科学研究科)



超域イノベーション副専攻・高度副プログラム



ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム



未来の大学教員養成プログラム



これから受講する人に一言

● 修了できなくてもデメリットはありません。メリットしかないのだから、気になったら取ってみて! 充実した大学院生活のために、ぜひ受けてみてほしいです。

● 分野が違うと発想が全然違って、そこが面白い! こんな経験ができるのは、大学院の今だけです。

● どれだけ授業を取っても授業料は同じ。どんどん取ろう! まずは軽い気持ちで受講してみるとよいと思います。

● 自身の研究にも影響を与えてくれると思います。色んなこととの両立で少し大変ですが、大学院生活が充実すること間違いなしです!

● 自分の好きなことを好きなだけ勉強できる時間は今しかありません。大変な部分もありますが、何とかあります。得られるメリットの方が大きいです。

● 主専攻で得た知識や経験に対する理解が深まり、視野が広がると思います。

履修するには？

01

プログラムを見つける



プログラム一覧やi-TGPのウェブサイト
で関心のあるプログラムを探します。

02

情報を集める



オンライン合同ガイダンスやウェブサイト
などで情報収集をします。

03

履修計画を立てる



各プログラムのウェブサイトやシラバス
でプログラムの構成科目を確認します。



FAQ

博士前期課程2年次、博士後期課程2、3年次
からでもプログラムの受講はできますか？

受講は可能です。スケジュール的にプログラムの修了要件を
満たせるようであれば修了することも可能です。

修了認定証はどのように使えますか？

就職活動時などに参考資料として添付し、専門以
外に体系的に学んだ内容をアピールすることができます。

受講にあたってわからないことがあれば、
どこに相談したらよいですか？

i-TGPウェブサイトのお問い合わせページから
お気軽に質問をしてください。



複数のプログラムを
受講することは可能ですか？

はい、可能です。また、複数のプログラム
を並行して受講することもできます。
ご自身の授業計画や研究計画を鑑み
て、ぜひ積極的に受講してください。

プログラム修了要件

プログラムを修了するには、以下の条件を満たす必要があります。

1. プログラムの受講申請をしていること。
2. プログラムが定めた修了要件を満たしていること。

ガイダンスの情報や
プログラムの詳細は
i-TGPのウェブサイトへ
<https://itgp.osaka-u.ac.jp>



Check!

04

受講手続きをする

履修登録期間内に「プログラムの受講申請」と「構成科目の履修登録」の両方をおこないます。

「〇△プログラム」を受講しよう!

春学期は「〇△論」と「〇△演習」の2科目。残りは秋学期に…!



05

履修開始!

新しい学びや出会いにワクワク!



春学期
申請の
場合

スケジュール

4月

ガイダンス

・合同ガイダンス
・個別ガイダンス ※一部のプログラムのみ

プログラムの受講申請

秋学期(9月)にも受講申請を受け付けているプログラムもあります。

プログラム構成科目の履修登録

KOANで登録します。※一部の科目を除く

各プログラムに定められた科目の単位を修得

各プログラムの修了要件を充足

修了認定証交付 (3月末 または 9月末)

プログラムの 受講手続き

Check!

STEP1

プログラムの 受講申請

KOANから申請を受け付けているプログラムと、KOAN以外で申請を行うプログラムがあります。

※ KOANでの操作方法は、i-TGPのウェブサイトをご覧ください。

STEP2

プログラム構成科目の 履修登録

プログラム受講申請をおこなったうえで登録してください。所属研究科が開講している科目は所属研究科が定めた履修登録期間に登録してください。

⚠ STEP1、2 両方の登録が必要です

春学期
プログラムの受講申請・
科目の履修登録期間

4/8月15:00 ~ 4/17水13:00

※ 一部のプログラムは秋学期申請も可能です。

秋学期履修登録期間 9/24(火)13:00~10/8(火)13:00

副専攻プログラム一覧

プログラム名	履修対象者
未来共生プログラム	M・D
量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	M
金融・保険	M・D
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育副専攻プログラム)	M
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程副専攻プログラム)	D
知的財産法を修得した人材育成	M・D
超域イノベーション副専攻プログラム	M・D
公共圏における科学技術政策	M・D
公共圏における科学技術政策・研究プロジェクト+	D
アーキビスト養成・アーカイブズ学研究プログラム	M・D
人文学(グローバル・アジア・スタディーズ) (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
人文学(グローバル・アジア・スタディーズ) (人文社会系プログラム)	M・D

令和6年度は **70** のプログラムを開講!

プログラム名	履修対象者
人文学(グローバル・ユーロ・スタディーズ) (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
人文学(グローバル・ユーロ・スタディーズ) (人文社会系プログラム)	M・D
言語文化学 (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
人間科学(共生の生態) (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
人間科学(共生の生態) (人文社会系プログラム)	M・D
法学・政治学 (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M
法学・政治学 (人文社会系プログラム)	M
経済学・経営学 (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M
経済学・経営学 (人文社会系プログラム)	M
国際公共政策学 (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
国際公共政策学(人文社会系プログラム)	M・D

高度副プログラム一覧

プログラム名	履修対象者
トランスカルチャーの技法	M・D
量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	D
安全なデータ活用のための セキュリティ人材育成プログラム	M・D
ヒューマン・メタバース疾患学	D
対人支援現場における対話	B5・B6・M・D
マイノリティ・スタディーズ	B5・B6・M・D
グローバル・ジャパン・スタディーズ	M・D
グローバル・ストーリー	M・D
デジタルヒューマニティーズ	M・D
世界の言語文化とグローバリゼーション	M・D
言語学	M・D
グローバル地域研究	M・D
アート・ファシリテーション	M・D
大学マネジメント力養成・向上プログラム	M・D
ユネスコシェア「グローバル時代の健康と教育 ～健康のための社会デザイン～」	B5・B6・M・D
基礎理学計測学	M・D
健康医療問題解決能力の涵養	M・D
スポーツ医科学研究プログラム	M・D
健康・医療イノベーションプログラム	M・D
医学倫理・研究ガバナンスプログラム	M・D
死因究明学に根ざした 法医学者・法歯学者養成プログラム	D
科学技術をイノベーションにつなぐために	M・D
高度溶接技術者プログラム	M・D
グローバルリーダーシップ・プログラム	M
感染症学免疫学融合プログラム	D
インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	M・D

プログラム名	履修対象者
予測社会医学プロフェッショナル育成	M・D
メディカルデバイスデザイン	M・D
バイオメディカルインフォマティクス	M・D
バイオマテリアル学	M・D
数理モデル	M・D
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育)	M
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程教育研究訓練プログラム)	D
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (後期課程社会人ナノ理工学特別コース)	D
ナノサイエンス・ナノテクノロジー 高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程社会人特別選抜)	D
知的財産法を修得した人材育成	M・D
共創的放射線教育プログラム(CREPE)	M・D
未来の大学教員養成プログラム	M・D
公共圏における科学技術政策	M・D
社会の臨床	B5・B6・M・D
超域イノベーション高度副プログラム	M・D
科学技術と倫理的・法的・社会的課題(ELSI)	M・D
ヒトはいかにして人になったか	M・D
大学院生のための工学入門 (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
大学院生のための工学入門 (理工情報系プログラム)	M・D
データサイエンス (マルチリンガル・エキスパート養成プログラム)	M・D
データサイエンス (理工情報系プログラム)	M・D

履修対象者 **M** 博士前期課程、修士課程、生命機能研究科の博士1・2年次、法科大学院の課程
D 博士後期課程、博士課程、生命機能研究科の博士課程3年次以上 **B5・B6** 6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5・6年次

大阪大学 大学院副専攻プログラム/大学院等高度副プログラム

お問い合わせ 教育・学生支援部 国際共創大学院支援事務室 教育支援係
 ☐ mirai-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp ☐ https://itgp.osaka-u.ac.jp

プログラムの詳細は
 ガイダンスやウェブサイトへ!

